

「トータルライフケアサービス」は介護という枠にとらわれず、介護を受ける方や介護する方の生活全般に関わるお悩みやお困りごとを解決するサービスです。

暮らし悠久

2015年11月25日発行

Vol. 5

介護を受ける方や介護する方の生活全般に関する
ご相談はスマイルケアカスタマーセンターへ



カスタマーセンター電話番号

0120-098-298 <相談無料>



- Q 通知カードとは?**
- A 年内に、住民票のある住所の世帯ごとに簡易書留で送られてくるマイナンバーが記載されたカードです。書留の中身は次の通りです。
- ①宛名が記された用紙
 - ②世帯の人数分の「通知カード」
 - ③説明書
 - ④「個人番号カード交付申請用紙」
- 今回届く通知カードは、自分の番号等は確認可能ですが、後述の個人番号カードのように正式な本人確認書類にはなりません。常時持ち歩く必要はありませんが、なくさないように大切に保管しましょう。

- Q どんなときを使う?**
- A 来年以降、年金や医療保険、介護関連の手続き書類に、マイナンバーの記入欄が増えます。現在の記号番号（基礎年金番号等）がマイナンバーに変わることで、年金や税金などの手続きを簡単に間違なく行えるようになるための制度です。

- Q どんな制度?**
- A マイナンバー制度を分かりやすく日本語で言うと、「国民総背番号制」。国民ひとりひとりに個別の番号を割り当て、年金や税金などの手続きを簡単に間違なく行えるようになるための制度です。

小さな赤ちゃんから高齢者まで、国内に住民票を有する全ての人に12桁の番号が割り振られるマイナンバー制度。いよいよ来年、平成28年1月からの運用開始に伴い、各自治体で番号の通知がはじまっています。ただ、高齢者にとっては「マイナンバー」という名称からして馴染みがうすく、いったい何に使うのか、どんなメリットがあるのか分かりにくいのも事実。今回は、制度の概要と知つておきたい様々な注意点について、ファインシャルプランナーの山根裕子先生にお話をうかがいました。

特集 マイナンバー制度導入で高齢者の暮らしはどう変わる?

- Q 個人番号カードとは?**
- A 平成28年1月より、送られた通知カードに申請書と写真を添えて役所に申請すると、プラスチック製の「個人番号カード」が発行されます。こちらは通知カードと異なり、運転免許証のように本人確認書類として使うことも可能。ただ、申請当初は役所の混雑や混乱が予想されます。身分証明として必要な事情があれば別ですが、そうでなければ慌てて申請しなくても特に困りはしないでしょう。もう少し制度が整い、個人番号カードで様々な行政、福祉サービスが受けられるようになつてからでも遅くはありません。

- Q 内容に違いがあつた場合は?**
- A 万が一、通知カードの記載内容に誤りがあれば、ただちに同封されている問い合わせ先に連絡を。年内にカードが届かない場合も、役所に問い合わせましょう。
- Q 高齢者にとってのメリットは?**
- A まず分かりやすいのは、個人番号カードは身分証明代わりに使えるという点。現在、高齢者の中には、車を運転しないのに、身分証明として運転免許証を保有している方が数多くいます。が、マイナンバー制度開始後はその必要はありません。その他、年金関連の手続きが簡略化されるなど、高齢者にとって重要なサービスが、従来より簡単かつ便利に受けられるようになります。

- Q その他注意点は?**
- A 個人情報の保護については、不正や情報漏えいがないよう何重もの対策が施されることになっていますが、各自の安全意識が低ければ意味がありません。住所・氏名と同様、不用意にマイナンバーを人に伝えることのないよう肝に銘じておきましょう。特に、通知カードや個人番号カードのコピー等を勧める申し出は違法なので、要注意です。
- (マイナンバー制度に関するお問い合わせはこちらく)
総務省マイナンバー総合フリーダイヤル(無料)
0120(95)0178

平日／9時30分～22時
(年末年始12月29日～1月3日を除く)
土日祝／9時30分～17時30分

株式会社エフ・ピー・エー
代表取締役 山根裕子
ファインシャル・プランナー

この人に
聞きました



ご注意!! インフルエンザの季節到来!
重症化を防ぐためにも
まず予防接種を!

毎年、12月～3月にかけて流行するインフルエンザ。感染すると38℃以上の高熱や頭痛、関節痛等に見舞われ、高齢者の場合、重症化する恐れも。予防と重症化防止のために、ワクチン接種が効果的です。65歳以上の方や、60～64歳で心臓やじん臓、免疫機能等に著しい障害がある方は、予防接種法に基づく定期のインフルエンザ予防接種の対象となっています。かかりつけの医師と相談の上、流行前のワクチン接種を心掛けましょう。

ワクチン以外では、手洗いや消毒もないよう注意し、マスクを着用するなど「咳エチケット」を。その他、部屋の保湿や栄養バランスの取れた食事等、普段の生活面での対策も重要です。



住宅改修実例紹介

高齢者にとってお風呂は、思つた以上に危険が多い場所。水滴に足をすべらしたり、立ちくらみでよろけたり…。万が一の場合に備えて手すりを設置しました。



